Diat. Hokkaido (m. Daisetsu!), Honshu (m. Iwate!, m. Shibutsu!), et America occident. (Oregon!).

var. **bracteosa** (Hara) Hara, comb. nov.

S. sitchensis var. *bracteosa* Hara, l. c. 233 (1934).

Dist. Hokkaido (m. Shari!, m. Daisetsu!).

var. **riishirensis** (Makino) Hara, comb. nov.

S. riishirensis Makino in Bot. Mag. Tokyo 21: 155 (1907).

S. sitchensis var. *rishiriensis* Kudo, Rep. Veg. N. Saghal. 168 in nota (1924) -Hara, l. c. 233 (1934).

Dist. Hokkaido (m. Rishiri!), Kuriles (Etorofu!), Korea (m. Paik-tu-san!), et Sachalin (m. Tosso!).

var. **Kishinamii** (Honda) Hara. comb. nov.

S. Kishinamii Honda in Bot. Mag. Tokyo 47: 433 (1933).

Dist. Honshu media (m. Shirouma!).

○特殊な接木法 (津山 尙)

福島市と郡山市の中間の高原地帶にある二本松在の人に聞いた話である。この方面ではカヤを家まわりの風除用に植え，又その果實を間食用に多く用ひる風習がある。所がカヤの生育は頗る遲く，果實を結ぶまでには七八十年もかゝると言ふ。それ故次の樣な特殊な方法を用ひて生育と結果を促進するのが例になつてゐる。先づカヤの實を兩手に一杯つかみ，その儘一塊にして穴の中に播く。翌年5月頃，數十本密集して出揃つた若苗を植つた儘各の莖を地面上數 cm の所で兩側の皮を長さ 3 cm 許小刀で剝取り形成層を露出させる。次にこれを集めて紐で稍々固く縛つて一本とし，その上から更に竹の皮で卷き，砂を盛り上げてその部を隱し，更に粘土を被せて，苗の先端のみが見える樣にして置く。かくすることによつて雨水の浸入を防ぎ，適當な濕氣を與へて互ひに呼接される結果となる。3年目の春元氣のよい2，3本を殘して，接着した部より上方を切り取ると殘つた苗は數十本分の根部を得て勢よく伸び初めるが，數年後にその最も元氣なのを一本殘して切ると成育は益々順調で50年目位から果實を結び初めると言ふ。

この方法は同地方でユズにも用ひる由である。この場合は果實の儘播きつけ，翌年果皮を破つて出てくる新苗に同樣の處理をするのである。この地方の俚言に「桃栗3年，柿8年，馬鹿の柚めが50年」と言ふのがあり，普通ではユズの種を播いた人は生涯の間には果實を食することが出來ぬとされてゐるが，この方法によると20年目位から結果を初めると言ふ。この地方でカヤ，ユズに限つてかゝることをするのは如何なる譯であるのか誰も知らない由。